

[特集2] [特集1]

思 閉

瀬戸内国際芸術祭2010
世界の「希望の海」となる、旅の始まり

教育先進国フィンランドとオーストラリアを見て

う 幕

★学力・人間力育成推進会議 平成二十二年度 上半
期の取り組み★平成二十三年度 教育研究助成・文化
活動助成の募集開始



瀬戸内国際芸術祭2010 閉幕

世界の「希望の海」となる、旅の始まり。



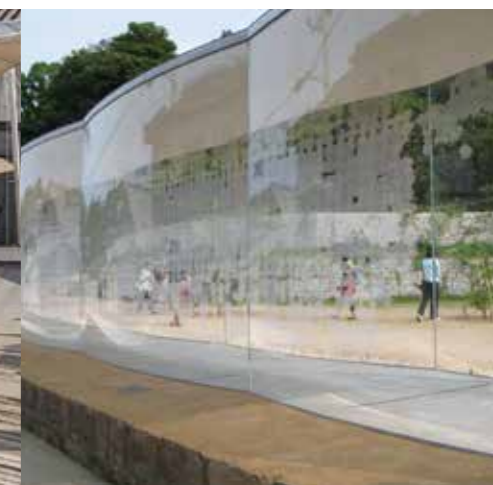
1 開会式



2 小豆島の「わらアート」



3 男木島の「オンパ・ファクトリー」



4 犬島「家プロジェクト」

日本列島のいずれの地域も、
世界のどの場所も、
それは私たちの祖先が頑張って工夫して生きてきた場所なのです。

アートをきっかけに知る島の価値、素晴らしさ。
アートがつなぐ人と人、人と場所。

北川フラム氏「海の復権」の一部。公式ガイドブックより

7月19日快晴の高松港で大漁旗に祝福されて始まった「瀬戸内国際芸術祭2010」は、10月31日雨のテント下で関係者の「なしとげた喜び」と感涙で幕を閉じました。105日間の長丁場、猛暑の夏から秋への移ろいの中で作品を見守り続けた島の皆様や「こえび隊」、様々な困難を克服して運営に当たられた実行委員会の皆様、おめでとうございます。そしてお疲れ様でした。予想の3倍以上の来場者の陰には、どれほど多くの汗と涙が流れたのでしょうか。

当財団も、実行委員会の一員として、岡山側でのPRや関係者に対する協力依頼、説明会や講演会、シンポジウムを開催するほか、維新派犬島公演を主催しました。ご支援いただきました行政や教育・文化関係、経済界の皆様、来場いただいた皆様にお礼申し上げます。



7 犬島「維新派」公演

芸術祭に参加された皆様は、何を感じられたのでしょうか。

私自身が感じたのは、新しい何かに触れたいと思う期待感。海と土、木々、そして人の暮らしが醸し出す爽やかな香り。見知らぬ人に自然に「こんにちは」と言える優しさの芽生え。そして、何よりも心に残ったのは、人々の笑顔でした。

地元の報道関係者

自分は今まで、海の汚染や産業廃棄物など瀬戸内海のネガティブな面のみを伝えてきたし、それが役割と思っていた。一方で、瀬戸内海が日本で初めての国立公園に指定された意味や、自然と人が共生していること、荒廃していると思っていた島や海にこれほど人をひきつける魅力があること、を忘れていた。真実を伝えながら地域が元気になれる報道のあり方を考えた。

こえび隊23歳女性

私は東京で大学を出たが就職できず、岡山に帰ってきた。家に引きこもりがちになって家族ともけんかばかりしていたが、思い切ってこえびに参加した。海を渡る快感と、島の人、来場者やこえび仲間との会話が、とても新鮮で気持ちがいい。心と体が元気になった。

芸術祭会期後も各島には多くの作品が残ります。特に、混雑の激しかった地中美術館と会期末直前に開館した豊島美術館の2館は、今年中は鑑賞パスポートが有効です。これからも、季節ごと表情を変える島々のアートに触れ、瀬戸内の風情と人情をお楽しみください。(残る作品やアクセス、開館日等は「瀬戸内国際芸術祭2010」のホームページをご覧ください。)

現在、実行委員会で次回の開催が検討されているそうです。今回の課題も多いと思いますが、これらを解決し、新たな瀬戸内海の感動を体験したいものです。そのときには、皆様方ご支援をよろしくお願いいたします。

瀬戸内海が、世界の「希望の海」になる旅が始まっています。(財団・中野)

総入場者数 938,246人 一日平均 8,936人
一日最大 25,699人(10月10日)

直島 291,728人 豊島 175,393人 女木島 99,759人
男木島 96,503人 小豆島 113,274人 大島 4,812人
犬島 84,548人 高松 72,319人

※イベント入場者数53,193人は総入場者数に含まず。

◎維新派犬島公演鑑賞者(7月20日から8月1日まで12公演)約5,000人

◎こえび隊登録者数約2,600人



5 豊島美術館 内藤礼「母型」2010年



6 李禹煥美術館

森と湖の国
フィンランド・ロバニエミ

教育先進国 フィンランドとオーストラリア を見て思うこと

白井洋輔

吉備国際大学 教授
福武教育文化振興財団 評議員

オペラハウスと
ハーバーブリッジ



漂流日本

漂流とは、日常性およびその先が突然失われ、進むべき方向など皆目分からなくなって五里霧中状態に陥っていることである。しかも日数のみが無情に繰られていけば、この先には餓死の恐怖もちらつき始める未体験ゾーンに踏み込むことになる。今日本はそれがじわりじわりと現実味をおびている。

日本がそこから脱出するために知っておかなければならないことは、陥っている現状の認識である。しかしそうした状況下にあるにもかかわらず、身の回りは「枯渇」とはほど遠い繁栄の幻がなお支配している。それがために、これから先の厳しい状況を理解出来ないのが悲しい。

今日本のことを「フォアグラ JAPAN」と揶揄する言葉がある。何でもかんでも情報をたれ流し、消化不良に陥って本質が何も見えなくなっている。もの凄い量の情報



ヘルシンキ大学図書館

の嵐が勝手に吹き荒れ、さらに闇雲に進んでいる日本のことである。

情報だけではない。氷河期と呼ばれる若者の就職難という現状の中で、毎日毎日日本人は300万食も捨てているという飽食日本の姿は由無いことである。

国民1人当たり凡そ800万円という国の借金は返せる当てなど全くなく、破綻寸前の状況となっている。政治も経済も社会も教育までも全て壊れて

いくこの危機は、どんどん進行しているのに、情報も含めた飽食が故に危機が目の前まで迫っていてもそれが感じられないとすれば、滑稽な「海底魚」状況かも知れない。

鱈や鮫は地引き網に掛かって、その網が徐々に絞られながら引き揚げられる時、どのような行動に出るのか。目の前における、めったに遭遇しない無数の魚が、狭められていく網の中に見え始めると、鱈には千載一遇の「大御

馳走」に映り、「たらふく」食べまくって一瞬の満足感を謳歌しているという。その直後の運命は知れたこと。現代日本がどのような状況下かを知らず、直近しか見えていないとすれば、日本人は網の中の鱈、鮫である。

教育先進国2大ヒーローから学ぶもの

私は福武教育文化振興財団の計らいで、2大教育先進国といわれるオーストラリア(平成22年8月)とフィンランド(平成18年9月)の2ヶ国を訪問した。その2つの教育先進国から分かることがある。

たった建国200年しか経っていないオーストラリアから学ぶことがある。オーストラリアは先進国で唯一躍進を続け、豊かに輝いていてもその次を模索し続けている。TAFEに象徴されているように、教育制度の時代への適応能力には



国も青春 真冬のシドニー

目を見張るものがある。

一方800年間もロシアとスウェーデンの支配を受け続けてきた歴史を持つ、フィンランドから学ぶことがある。北欧で最も遅れていた国が今や、義務教育達成度、図書館利用度も世界一、国際競争力も常に先頭グループであり続けているのは何故か。

それは過去を忘れず、歴史の中に未来の鍵が存在することを確信し、常にその先を見る精神と歴史観を国民が教育を通して共有しているからである。

目先の、見える「情報」から生き方を学ぶことはない。「見えないものが見える」ことこそ生き方かも知れない。日本は判断力の大切さ、つまり生き方、先への行き方が損なわれている。



〈平成二十二年度〉上半期の取り組み
学力・人間力育成推進会議

学力・人間力育成推進会議は、東京大学大学院教育学研究科市川伸一教授を指導顧問に迎え6つのIFプランを推進していますが、今年度新たに2地区が加わり、合計8地区20校で実践しています。

昨年からは、県内の実践者が中心になって「教えて考えさせる授業セミナー in おかやま」を始めています。これは「教えて考えさせる授業」を実践するうえで効果的な方法を研究し実践しようとするもので、昨年は約70名の参加者が授業指導案づくりを研究しました。

今年度は、夏季休業中の7月31日に「3面

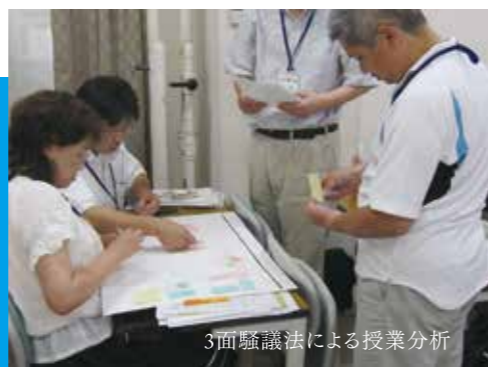
騷議法」という手法を用いて、DVDに収録した授業映像を元に授業分析を行いました。

3面騷議法とは、市川研究室で開発している手法で、実際の授業を良い点、改善案、自分に生かせる点の3方向から分析し、授業改善に役立てようとするもので、授業後の協議会を活性化させる効果が期待されています。

また、8月21日には学力・人間力育成推進会議の今年度第1回交流会を行い、各地区の実践発表、情報交換を行った後市川教授から指導講評を受け、2学期の実践に生かしています。(財団・佐々木)



交流会での発表風景



3面騷議法による授業分析

Information

平成23年度 教育研究助成・文化活動助成の募集を開始します！

福武教育文化振興財団は、岡山県内の教育、文化の発展のために尽力されている個人・団体を積極的に応援しています。ご応募を心よりお待ちしております。

応募方法

学校園、市町村教育委員会、公民館等へ配付予定(11月下旬)の募集要項をご覧ください、所定の申請書に必要事項をご記入の上、当財団事務局宛に郵送してください。

応募期間

平成22年12月1日(水)から平成23年1月31日(月) 【当日消印有効】

助成対象

教育研究助成

岡山県内の保育園、幼、小、中、高等学校、特別支援学校、専門学校、教育委員会所管の教育機関の職員および保護者、地域ボランティア団体等。

文化活動助成

岡山県内で文化活動を行っている個人・団体。ただし、学術研究や単なる趣味・同好の活動等は対象となりません。原則として社会人を対象としますが、活動の内容によっては青少年のグループも対象となります。

※詳細につきましては、11月下旬更新予定の当財団ホームページをご参照ください。

福武財団 岡山

検索

<< <http://www.fukutake.or.jp/ec> >>

贈呈と発表会

教育・文化の助成対象者には、助成を受けた年とその翌年の贈呈・発表会にご参加をいただいています。この会では、助成の贈呈と1年の成果を報告していただく発表、交流を行います。

岡山県下で教育・文化活動を行っている方々が一堂に会する機会を作り、ネットワークの構築や情報交換などの交流の場としています。

教育事業は7月に、文化事業は9月に開催しています。応募に際し、あらかじめご理解をお願いします。



「はじまり」 青地大輔



最後の船が港を出ると、にぎやかだった島は静寂な空気につつまれる。一日の終わりとともに本来の島の姿に戻るのだ。この時間になると島の人達が海辺に出てきて夕涼みをはじめ。各々が自分の一番のお気に入りの場所で。そこで出会った島のお年寄りは皆口を揃えて言う。「この時間が島の一番いい時間だ・・・。」

最後の船が出てから日没までの時間は不思議と緩やかに進むのだ。空が黄色から赤色、紺色、漆黒へと変化し、様々な表情を見せてくれる。自然がもたらすこの表情も島の魅力の一つではないのだろうか。だから、出会った来島者にいつも私は言う。「次くるときには、泊まったほうがいいよ」と。島に泊まったことがある者でなければわからない魅力がある。

10年以上犬島に通っている私でも島に泊まるたびに新しい魅力に気づかされる。それくらい島という場所は変化に富んだ場所でもあるのだ。

瀬戸内国際芸術祭という100日間の大きなお祭りは終わった。入場者数93万8246人。いったいどれだけの人が島の持つ本来の魅力に気がつくことができたのであろうか。

これからが本当の島時間のはじまりなのだ。

Editor's comments

この夏から秋にかけて岡山県では、瀬戸内国際芸術祭と国文祭が開催され、現代アートや地域文化に触れるだけではなく、他所から訪れている人々、島の人々、地元の人々と交流する機会もたくさんあったのではないのでしょうか。

瀬戸内国際芸術期間中には、6つの島を訪れました。豊島に行った時、巡回バスで隣に座ったおばあちゃんが話かけてきました。話を聞いていると、船に乗り遅れて困っていた若い女の子を自宅に泊めてあげたとのこと。次の日は、車で島を案内して、港まで送ったそうです。「明るくてええ子でな、豊島美術館ができればまたおいでと言ったら、また来るって言ってくれたんよ」と話をするおばあちゃんの笑顔につられ私も笑顔になっていました。このような出来事が島のあちこちであったのではないのでしょうか。皆様はどのような出会いがありましたか？

12月から来年度の教育研究助成と文化活動助成の募集を開始いたします。対象事業についての相談や申請書の記入についてのご質問がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。(W)

季刊

不易

F U E K I vol.40 2010.11.30

編集・発行：

財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17
株式会社ベネッセコーポレーション本社3F

TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190
URL <http://www.fukutake.or.jp/>
E-mail eczaidan@fukutake.or.jp

制作：
株式会社 吉備人
デザイン：
田中雄一郎(QUA DESIGN style)
印刷：
広和印刷株式会社



人づくり、地域づくりを応援します

財団法人 福武教育文化振興財団

FUKUTAKE
EDUCATION AND CULTURE
FOUNDATION